

会員増強部門

クラブ拡大・会員増強委員会



委員長
今 春淑
(十和田八甲RC)

成田ガバナー年度にて、クラブ拡大・会員増強委員長を仰せつかりました、今春淑(十和田八甲)です。宜しく申し上げます。国際ロータリー 2021-22年度 シェカール・メータ会長のテーマは「奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために」。成田年度の地区スローガンLet's Enjoy Rotary Life「ロータリーライフを楽しもう」。奉仕するにも、誰かの人生を豊かにするにも、会員増強し、参加者の基盤を広げ、自分自身ロータリーを楽しみ、会員皆様と共にロータリーライフしていきたいと思ひます。

地区目標としては

- ①退会防止と会員増強（ひとりが一人に声を掛ける）
- ②新クラブの設立（衛星クラブ、ハイブリットクラブ、活動分野に基づくクラブ）
- ③ローターアクトクラブ（6クラブ）の会員増強となっております。会員増強の意義、基に、会員増強活動はロータリーの理念が奉仕活動を地域に広める一助になります。会員増強はクラブが地区の経済的な基盤を確立します。会員候補者自身、現会員にとって得がたい仲間が出来、そして経営者として、人として素晴らしい成長の場になります。

クラブ拡大、会員増強委員会としては

- (1) コロナ禍の中、退会防止に向けた対策を講じる。
- (2) 会員増強（ミラクル1200）
 - …会員数を1,200名まで増やす。
 - ・2021年12月末までに、必ず会員ひとりが一人に声を掛ける。
 - ・各クラブの目標（全クラブで純増85名を目指す）

会員数	1名～15名以下クラブ	純増1名
	16名～30名以下クラブ	純増2名
	31名～50名以下クラブ	純増3名
	51名以上のクラブ	純増4名

を目標に頑張っていきます。
- (3) 新クラブの結成
- (4) 公共イメージ向上委員会と連携を図り、会

員維持と会員増強を目的とするPR活動をして参ります。

以上の目標を達成する為には、2830地区の各クラブ、会員皆様からのご協力とご指導をお願い申し上げます。

公共イメージ向上部門

公共イメージ向上委員会



委員長
上野 実穂
(八戸中央RC)

国際ロータリーのイメージ向上、地域での認知度を向上させ会員増強の一助となる様に地元マスコミでPR広告、Facebook、Twitter等SNSを活用しながら一年間活動してまいります。

1. 7月～10月初旬まで地元民放3局で各クラブの奉仕活動をPR放映します。
2. 地区内の様々な行事、各クラブの奉仕活動等をマスコミに取材を依頼しFacebook他SNSに投稿していただく様働きかけます。
3. 地区委員会の会議、インターアクトクラブのオンライン化など技術的支援を出来る様、相談体制を整えサポートしていきます。

社会奉仕・職業奉仕部門

社会奉仕・職業奉仕委員会



委員長
三上 貴生
(弘前RC)

社会奉仕・職業奉仕委員長の三上です。本年度は花田前委員長のもとで行われてきた青森大学にて行われてきた「じょっぱり経済学」を引き続き継続することになります。それに伴い青森大学からの強い要望によりまして“講師はロータリークラブの会員の中から選定して頂きたい”という事でしたので以前講師を務めた方も含めて選定させて頂きました。

会員の皆さまには快諾して頂き感謝申し上げます。近日、青森大学との協定調印式を行う運びとなっております。

また、本年度RI会長シェカール・メータの掲げる「ロータリー奉仕デー」に於いて成田ガバナーから当委員会にも要請がありましたので、お手伝いをさせていただきます。

国際奉仕部門

国際奉仕委員会



委員長

白山 春男

(十和田東RC)

成田ガバナーの基本理念である「世界でよいことをしよう」。

これを受けて関場PDG、鈴木PDGに相談しながら委員の意見を汲み検討し、我が2830地区として可能な事業を計画したいと思います。

条件は相手先にロータリークラブが存在すること、渡航に支障がないこと、比較的安全が保たれていること等を考慮しながらまずは調査をしたいと思います。

ロータリー財団部門

ロータリー財団委員会



委員長

佐々木 眞一

(むつ中央RC)

成田ガバナー年度もコロナ禍でロータリー財団活動は影響を受けることが予想されますが、当地区の委員長・委員の皆様の努力で活動は停滞することなく実行される事とおもいます。

成田ガバナー年度からの財団の変更点は数点あります。①シェアシステムのDDFに対してのWF上乗せ比率が100%から80%への変更。②現在財団活動の重点分野は6項目でしたが新たに7つ目として「環境の保全と保護」の項目が加わり、この項目を目的

とした活動が認められる事となりました。③ロータリーアクトクラブが地区補助金・グローバル補助金の申請をして奉仕活動を行う事が可能となりました。申請する際は事前に「ロータリー財団セミナー」を受講していただき、申請方法・活動報告の仕方を学んでいただきます。

地区チーム研修セミナーでは成田ガバナーから財団への活動目標のお願いがあり、五つの小委員会も成田ガバナーの目標達成に協力する事を確認いたしました。

ロータリー財団としての大きな活動の一つ「ロータリー財団セミナー」を年2回開催しておりますが、新型コロナの終息が見えない状態では実施が困難と思われれます。リモート会議などの手法で実施を考えております。

沼田年度・源新年度では新型コロナウイルス対策として初めてグローバル補助金事業を行い、50,000\$の医療用品を県庁に寄贈することができました。ロータリアンの皆様の財団への寄付が感染防止のために使用された事に感謝申し上げ、成田年度も財団へのご理解とご協力をお願いいたします。

ロータリー財団部門

地区補助金委員会



委員長

小田 桐隆夫

(むつRC)

地区補助金委員会は、クラブ会員から3年前の寄付金を原資として、地域のために活用できる補助金です。昨年に続き全クラブの申請を受付し活性化を目指します。

- 7月 財団セミナー
前年度プロジェクトの報告
- 8月 地区補助金振込み予定
- 12月 財団セミナー
次年度地区補助金の要件
- 3月 地区補助金の申請締切
次年度地区補助金の申請
(地区事務所へ)
- 5月 地区補助金の確定

ロータリー財団部門

グローバル補助金委員会



委員長
川崎 益美
(八戸北RC)

タイのRI3330地区との交流で、2012-13年度から『水と衛生の事業』に取り組み現在も継続事業として、取り組んでいます。(ガバナー月信2021年3月号)

COVID-19の関係で人の移動制限があり、2020-21年はRI3330地区とのグローバル補助金の活用は、現地の病院への医療支援に変更されております。(当地区は12,000ドル拠出)

- ①グローバル補助金は、ロータリーの6つの重点分野のいずれかに該当し、持続可能かつ測定可能な成果をもたらすことが求められておりますので、今年度はタイのRI3330地区に赴きこれまでの成果とこれからの方向性の再確認をしております。(政府の渡航制限解除が前提)
- ②ガバナー方針に従い、今年度新たに「国際奉仕委員会」が設けられましたので、連携を図り、新たにグローバル補助金を活用できる事業を探ります。
- ③2022年7月からローターアクトクラブもグローバル補助金の申請が可能となるので、アクトクラブへの広報活動を行います。

グローバル補助金の内容や仕組み、及び活動等をよく理解できておりませんでした。ガバナーからの指名でしたので、引き受けることに致しました。財団のプログラムは、『寄付しなければならない』とのイメージがありますが、自分自身勉強して会員の皆様になじみやすいように頑張りたいと思います。一年間宜しくお願い致します。

ロータリー財団部門

資金推進委員会



委員長
木村 由美
(弘前アップルRC)

活動目標

- ・12月末までに寄付0クラブ ゼロに！
- ・一人年次寄付 150\$達成
- ・ポリオプラスへの寄付 一人30\$達成
- ・ロータリーカードの導入

このような寄付のおかげで、人々の人生を変えるような持続可能なプロジェクトが可能となります。

すべてのロータリアンが毎年寄付を行えば、課題がどんなに大きくても変化を生み出す事が出来ます。このコロナ禍ではございますが、今一度一丸となり努力できればと思います。宜しくお願い致します。

ロータリー財団部門

平和フェロシップ・奨学金・学友委員会



委員長
工藤 真人
(青森RC)

平和フェロシップについては、毎年、ロータリー平和センター提携大学で学ぶ最高130名のフェロシップが世界中から選ばれ、ロータリーからフェロシップ(全額支給の奨学金)が授与されます。フェロシップには、授業料・入学金の全額、滞在費(宿舍・食費)、往復航空券、インターンシップと実地研修の費用が含まれます。2002年に創設されて以来、ロータリー平和センターは1,400人以上のフェロシップを輩出してきました。これらのフェロシップは現在、115カ国以上で活躍し、政府、NGO、軍、教育、

法執行機関のほか、国連や世界銀行といった国際機関でリーダーシップを発揮していますが、提携大学院が日本は国際基督教大学その他は海外の4大学に限定されるなど選考条件も厳しい奨学制度です。

グローバル補助金奨学金は、4年制大学を修了した方（または見込みの方）を対象に、ロータリーの重点分野（・平和構築と紛争予防・疾病予防と治療・水と衛生・母子の健康・基本的教育と識字率向上・地域社会の経済発展）で活動する未来のリーダーを育成するためのものです。海外に留学を希望する、4年制大学を2年以上修了した方（または見込みの方）を対象に、ロータリー財団の奨学金を提供し、支援しています。

地区補助金奨学金は、高校3年生卒業予定者を募集して、国内の大学へ入った際に奨学金を支給する制度です。

平和フェローシップ奨学生、グローバル補助金奨学生、地区補助金奨学生とも今年度も募集いたします。

また、学友の掘起こしを行い、学友の活躍の報告や連絡網の確立に努力します。

会員の皆様のご協力を宜しくお願い致します。

ロータリー財団部門

ポリオプラス対策委員会



委員長
森内 忠良
(青森RC)

関場バスターガバナーを筆頭としたインドへのポリオワクチン投与活動が始まって、二十年が経過した。今後は新型コロナウイルスの感染状況を判断しながら、世界ポリオデー（10月24日）に向けての地区グループごとのイベント開催や、メディア（TV、SNS等）を利用した活動意義の周知などを行うことで、公共イメージの向上をはかっていきたい。

そして何よりも成田ガバナーエレクトがつかないできたインドへのポリオワクチン投与活動の継続を他地区と連携して行っていきたいと思っている。

また、改めて会員の皆さまにポリオプラス30ドル／人以上の寄付金をお願いしたい所存である。

青少年奉仕部門

青少年交換委員会



委員長
細川 勝也
(弘前RC)

1. 「2022-23年度青少年交換派遣学生・来日学生受入れクラブ募集」

世界100カ国以上で実施されているロータリー青少年交換は、ロータリークラブによる支援の下、15～19歳の学生が海外に滞在し、言語や文化を学びながら、海外に友人をつくり、世界市民としての自覚を養うことのできるプログラムです。

なお、国際ロータリーは2022年6月30日まで青少年交換プログラムの中止を決定しています。

よって、2022年8月以降の派遣学生を募集します。新型コロナウイルス感染症等の事情により突然中止になる可能性がございます。ご理解いただき、ご応募ください。

2. 「2022-23年度青少年交換派遣学生募集ポスターの作成・配布」

募集と事業の広報活動として、第2830地区のすべての高校あてにポスターを発送致します。幅広い高校からの人材募集とロータリークラブをPRするためです。

青少年奉仕部門

インターアクト委員会



委員長
松山 隆志
(野辺地RC)

今年度、成田ガバナーより求められている活動は①インターアクト年次大会を開催する、②インターアクトの翼を実施する方向で検討を進める。ということでした。

現下のコロナ禍では、どちらも大きな負担を伴うものですが、「インターアクターのためになること」という大きな目標達成のために鋭意努力していきたいと思います。

①インターアクト年次大会

地区内20校に組織したインターアクトクラブのメンバーが一堂に会し、その活動についての情報を報告し合うとともに、寝食も含め共働することによって友情と親睦を深めることを目的とします。例年、各高校の夏休み期間中にホスト提唱クラブの協力により特色のある大会を盛大に開催していますが、昨年はコロナ禍により、予定していた大会を残念ながら中止せざるを得ませんでした。今年度からは、開催時期、開催方法、大会内容などを慎重に検討した上で「開催」に向けて行動したいと思います。

②インターアクトの翼

高校の冬休み期間を使いインターアクターを海外へ派遣。現地の家庭にホームステイしながら短期間ではありますが異郷での生活を体験、現地高校生と交流することによって、その後の人生への糧としてもらえる大変有意義な企画です。ここ数年は、台湾の現地ロータリークラブの多大なる協力により温かく迎え入れて頂き、大きな成果をあげています。出発前の不安と期待でどおどおどしていた参加者が帰りの飛行機の中では堂々とした顔つきになっているのを目の当たりにすると、是非継続していきたいと思える事業です。これもコロナの影響で途絶してしまいましたが、アフターコロナを見据え関係方面と広く協議の上、実施する方向で調整を重ねていきたいと思います。

委員会として大きな努力目標としては上記2点ですが、今年度はさらに各提唱クラブに対し「各高校インターアクトクラブへの指導をより推進すること」をお願いしたいと思います。各クラブ毎、それぞれの方法でインターアクトクラブへの関与を進めているとは思いますが、これまで経験したことのないコロナ禍の中、奉仕活動等の内容、実施方法等について方向性を見いだせずにいるインターアクトクラブも多いものと推察します。一步踏み込んだ関与によりその一助になれば、より効果的な活動を実行することが出来るものと考えます。各提唱クラブのインターアクト担当の方は、無理のない程度積極的に学校へ足を運び、高校生達と「話」をしてみませんか。

以上、今年度はコロナに翻弄され消極的になるのではなく、ウイズコロナもふまえた新たなスタートの年度となるよう進めていきたいと思います。

すべてはインターアクターのために...

青少年奉仕部門

ローターアクト委員会



委員長

柴田 文彦

(むつ中央RC)

ローターアクトクラブは、2019年9月の国際ロータリーの規定審議会で組織規程を行い改革的な変更が決定しました。

大きく変わったことは、二つあります。一つは、「ロータリークラブとして認める」としたことです。その為人頭分担金の発生やスポンサークラブとの関係も変わります。二つ目は、「30歳を上限としていたことを撤廃しても良い」ことになったことです。従来ローターアクトクラブの弱点でありながら特徴的な事柄がいとも簡単になくなるなんて魔法のようなできごとです。ロータリーは常に変化し柔軟性をもっていることに対応しなくてはいけないようです。と、同時に若年層でも大きな責任を伴うということを認識し、ローターアクト自身自覚してもらわなくてはなりません。

さて、当第2830地区では現在、青森に2つ、弘前、八戸、五所川原、むつの6つのローターアクトクラブが存在しております。現在地区代表が不在とお聞きしております。RIの大きな変革の前に、一つひとつのローターアクトクラブの充実を図るのが今年度の一番の使命と感じております。と、同時に平行して新クラブの創設と会員増強を図るものです。

宜しくお願い致します。

活動計画

1. 各クラブの充実を図る
2. 地区大会の開催
3. 新クラブ創設、会員増強

青少年奉仕部門

RYLA委員会



委員長

竹内 知弘

(弘前西RC)

RYLA次年度活動予定

2021-2022年度は、ガバナーエレクトのご予定にもよりますが、2022年4月23日(土)から24日(日)に予定したいと考えております。例年どおり1泊2日を考えておりますが、「2泊3日のプログラムの検討を」とエレクトからもありましたので、ちょっと考えてみま…す。

RYLAのプログラムとしては、

1. 地域の未来のリーダーに投資をしましょう。
2. そのリーダーの倫理観と自信を養いましょう。
3. 現代の若者が直面する問題について学びましょう。

をコンセプトに、活動をしていきたいと考えております。

それぞれのコンセプトに欠かせないのは、ロータリアンの参加でございます。

若い人たちのへのプログラムではありますが、RYLAをとおしてロータリーのおもしろさを知って頂き、いずれはロータリーへ参加もして頂きたいという隠れた思いもございます。

会員数増加のため、長期戦略計画の投資と考えて奮ってご参加くださればと存じます。

募集人員は、例年18歳から30歳までを対象としていますが、少し対象を拡げられたらと考えております。また昨年度は数名一般企業からの参加もございましたので、是非皆様がたの従業員からの参加も重ねてお願い申し上げます。

米山記念奨学部門

米山記念奨学委員会



委員長

三浦 順子

(弘前アップルRC)

1. 当会への理解や奨学生との交流の場として、できるだけ多くのクラブに卓話をさせていただきたく、各クラブの例会スケジュール調整をお願いします。
2. クラブ例会や地区の行事に参加することにより奨学生にロータリー活動の理解を深めることができるよう、ロータリアンの皆様が折に触れ交流を持ってくださるようお願いします。
3. 地区HPなどを通し広報活動につとめますのでハイライト米山と併せてご一読ください。

この事業は日本と世界の懸け橋となる人材を育てる大切なことです。

さらにはロータリアンひとりひとりのご寄付により成り立つものでもあります。懸け橋となる優秀な人材を一人でも多く育成するため、会員の皆様のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

活動計画

米山生とカウンセラーの支援 (ZOOM併用)

米山学友組織の強化と支援(前年度を踏襲します)

スケジュール (予定)

12月11日 (土)

次年度のための新米山生面接選考試験

1月29～30日 (土～日)

新春米山の集い

(米山生、カウンセラー、ロータリアン対象)

3月6日 (日) 修了証書授与式

4月3日 (日) 新奨学生とカウンセラーオリエンテーション

5月22日 (日) 米山生卓話講習会

*地区目標は普通寄付3,000円以上、特別寄付1万円以上をなにとぞお願い申し上げます。

ロータリー・リーダーシップ研究会

RLI委員会



委員長

米谷 恵司

(青森モーニングRC)

RLI委員会委員長を3年連続で拝命致します青森モーニングロータリークラブ所属の米谷恵司です。

RLI (Rotary Leadership Institute) はロータリーリーダーシップ研究会の略語で、1992年アメリカ、ニュージャージー州の元RI理事デビット・リンネット氏の発案で始められました。そして現在は全世界110ヶ国、約300近い地区にロータリーの研究、研修組織として発展しております。また、我が地区はRLIの先進地区となっており、黒田パストガバナーはRLI日本支部特別顧問として、また山崎パストガバナーはRLI地区代表委員、源新ガバナーはRLI地区代表ファシリテーターとしてご活躍されており、沢山のご指導をいただいております。

RLIの研修は予め決められたテーマのもと皆様で自由に意見を出し合うスタイルで行われます。そしてディスカッションリーダー (DL) は進行役として質問を投げかけながら参加者の自発的な考えや意見を引き出していきます。参加者は解答を求めるのではなく、テーマに対する参加者の発言を聞き、自分自身の解答や方向性を見出す研修になっています。この手法はロータリークラブの将来展望を考えるにあたり、クラブを牽引するリーダーの育成、そしてクラブの継続性、刷新性、活性化を図るうえで最も重要な事だと考えます。その為にはロータリアン各自のスキルアップが必要不可欠です。それを実現する為是非ともRLIを活用して頂きたいと考えております。

今年度は昨年度計画通り実施出来なかった、ディスカッションリーダー研修・レベルアップ、資質向上。更にはファシリテーターの養成を目指して参ると共に、オンラインでの実施を模索して参りたいと考えております。

RLI委員会は皆様クラブの益々の発展、活性化の

為、精一杯お手伝い致します所存でございますので、多数の参加を宜しくお願い申し上げます。